

各 位

会 社 名 三菱製紙株式会社
代表者名 代表取締役社長 木坂 隆一
(コード：3864、東証プライム)

問合せ先 企画管理本部
企業戦略部長 山田 大輔
(TEL. 03-5600-1488)

八戸工場リニューアルプロジェクト「**Reborn60 Hachinohe**」のお知らせ ～2030 年までに 250 億円を投じ、収益力と社会的価値を最大化～

三菱製紙株式会社は、中期経営計画「“SHINKA”する 130 年 NEXT 企業へ」の戦略的柱の一つとして、当社の主力拠点である「八戸工場（青森県八戸市）」を刷新するプロジェクト「**Reborn60 Hachinohe**（リボーン 60 八戸）」を始動いたします。本プロジェクトを通じて、2027 年度に操業 60 周年を迎える八戸工場を次世代型サステナブル工場へと進化させるとともに、同年度を最終年度とする中期経営計画を完遂し、その先の持続的な成長基盤を構築してまいります。

1. プロジェクト立ち上げの背景と目的

～高い潜在能力を、未来を切り拓く「競争力」へと昇華～

八戸工場は、大型の輸入チップ運搬船等が直接着岸できる専用バースを備えた国内有数の臨海型製紙工場です。また、豊富な水や北東北の広大な森林資源に恵まれ、優秀な人材を輩出する産業系教育機関も充実していることから、業界屈指のポテンシャルを有しています。

その一方で、60 年にわたる歴史の中で設備の老朽化が進み、生産性や職場環境の面で課題が顕在化しています。本プロジェクト「**Reborn60 Hachinohe**（リボーン 60 八戸）」により、蓄積された課題を一掃して、八戸工場を『世界一の競争力を備えた紙素材生産拠点』へと生まれ変わらせます。

2. 投資規模と主な施策

～250 億円の投資によって、「生産革新」と「脱炭素」・「Well-being」を実現～

2030 年度までに総額約 250 億円を投じ、以下の 3 つの施策を推進します。

①**生産革新**：DX を核とした次世代生産管理システムの導入によるエネルギー原単位の最適化。

先端技術を搭載した最新設備への刷新による生産プロセスの効率化・省力化。

②**脱炭素**：徹底したエネルギー効率の追求により、2030 年度までに CO₂排出量を 40%削減（2013 年度比）。

③**Well-being**：従業員の安全確保と働きやすさを最優先に、職場環境を抜本的に整備。多様化するライフスタイルや次世代のニーズに合わせ、社宅・寮を再整備。地域雇用を支える中核企業として、社員一人ひとりが高い志と誇りを持って活躍できる、生き生きとした企業文化を醸成。

3. 財務目標

～2030 年度に八戸工場の営業利益の大幅な増加を目指す～

本プロジェクトの完遂により、2030 年度には以下の財務・非財務目標の達成を目指します。

収益性向上：生産革新による効率化により**営業利益倍増(2024 年度比)**

環境負荷低減：CO₂排出量 40%削減（2013 年度比）

社会貢献：地元雇用の維持・拡大。地域経済の活性化へ寄与

4. 今後の展望

「**Reborn60 Hachinohe**」は、単なる設備更新にとどまるものではありません。三菱製紙が今後も地域と共に歩み、持続可能な社会を支える「素材メーカー」として成長し続けるための全社を挙げた取り組みです。

当社は、八戸工場を起点とした生産革新を通じて、企業価値の向上を図るとともに、地球環境と地域社会への持続的な貢献を果たしてまいります。

